

地方債発行額と地方債依存度の推移(県内市町・決算統計ベース)

地方債発行額は平成9年度をピーク(853億円)に、普通建設事業の減少等を背景として平成12年度には536億円まで減少したが、平成13年度以降は臨時財政対策債の創設により増加に転じた。

平成16年度以降、三位一体改革に伴って地方債発行額、地方債依存度ともに低下傾向にあったが、平成22年度以降は、臨時財政対策債や平成23年度に創設された緊急防災・減災事業債の発行額増等により、両者は増加傾向となった。

令和2年度以降については、令和元年度までの大型公共施設整備の完了等により地方債発行額が減少したことに加え、国庫支出金の増加により歳入全体が増加したことから、地方債依存度も大きく低下した。

しかし、令和6年度は公共施設整備の実施による旧合併特例債や緊急防災・減災事業債の発行額増により、地方債発行額と地方債依存度ともに増加に転じた。

